

# 市長 新春対談

坂東眞理子副知事と語る21世紀の地方行政



**副知事** そういった問題の中で必要になってくる、地域社会を育てるためにはどうしたらよいか考えますと、人間のふれあい大切だと思えますね。この子は〇〇さんの家の子、つてすぐに分かるような関係がいいと思えます。私の場合は、田舎町で育ちましたから町中の人が知り合いなんで、だからみんなに見られている。それが不自由ではあるんですけど、一つの安定感と与えられます。狭山市のように、人口が増えているところは難しいでしょうけれど、だからこそ心の結びつきや顔が見える人間関係が大切ですね。

**市長** そう思いますね。結びつき、輪を広げていくことが大切ですね。

**副知事** お互いに「一人じゃないん

## 地域社会を育てる

**市長** 国によっては、いじめも自殺もあるそうです。その取り組みのたんでしょか。

**副知事** そうですか。どんなお話だったんでしょか。

**市長** そうですね。狭山市では、AET(語学指導助手)のかたがたにもいじめ根絶対応委員会に同席していただき、体験談を含め、それぞれの国でどんな問題があるかを聞きました。これは非常に参考になりました。

**副知事** そうですか。どんなお話だったんでしょか。

**市長** 国によっては、いじめも自殺もあるそうです。その取り組みのたんでしょか。

中で、非常におもしろいと思ったのは、上級生と下級生が二人一組となり、悩みや勉強の面で相談できる仕組みがあるそうなんです。それから、国によってはいじめをするグループに、いじめをされた子が思いを吹き込んだテープを聞かせるというのもありました。それから、よいことをした子どもには、それを惜しみなく評価したり、いじめから友だちを守ろうとしている子を表彰してあげたり。そんなふうにして、それぞれの国でいろいろな取り組みをしていることが分かりました。

**市長** それでは、坂東副知事からの、狭山も含めた市行政に対するご意見「提案は」ごさいませうか。

**副知事** そうですね。これは私の個人的な意見ですが、公務員というのは有給のボランティアだと思えます。利益がないと倒産する企業と異なり、社会的使命があります。私は、「自分たちは世の中のためにやるよい仕事をさせていたたい、しかもそれでお給料までもらえる。」といつも感謝しています。昨年は大変不幸な事件がおこりましたが、二度とこんなことがないように全力で取り組みたいと思えます。「地域のために」自分から進んでチャレンジする精神。それが、町をよくすることに直結すると思うんです。ですから、第一は公務員にもっと頑張ってもらいたい。

**市長** それでは、私たちがも鋭意努力してはいますが、もっと頑張らなければいけませんね。

**副知事** そしてまちの人たちも、そういう地方自治体の「仲間」なのだから、どんどんコミュニケーションしてほしいですね。市民、県民の皆さんからの「こうしたらどうかしら。ああしたらどうかしら。」という建設的な議論がほしいです。市民と行政が力を合わせて計画も策定も実行もやっていく、というのが私の目標です。市民、県民の皆さんもみんな、力を合わせて素晴らしい地域をつくる「同志」です。

**市長** 市民と行政がパートナーとして、その積極的なやりとりを大切にしながら素晴らしい町を作っていくということですね。

## 狭山市に期待すること

**市長** それでは最後に、狭山市に対する印象や期待、アドバイスなどをお話していただけますか。

**副知事** そうですね。急速に都市化が進んでいる市です。それだけに、身近な自然を大切にしていって市民の愛着がわき、町に対する誇りにもなると思っています。自然と共生できる町

です。そして一人一人の声が生きてる町。特に女性たちの声が生きて、元気な若々しい町にしてほしいですね。

**市長** ありがとうございます。市民の皆さんも、副知事のご意見やご理解がとても励みになるし、元気になり活力がわいてくることと思います。みんなが積極的に何かに取り組

んでいこうという気になってきます。これからも、さまざまご支援、ご提言をお願いいたします。今日は本当にお忙しいところ、ありがとうございます。副知事のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

**副知事** こちらこそ、ありがとうございます。狭山市がますます発展していくよう、期待しています。

問い合わせ秘書広報課へ  
内線386



**市長** そういうことですね。そして、お母さんたちは家の周りにそういうことができる場所がないので学校でやってもらいたいと言います。ところが、今の形だとすべて学校にお任せという結果になってしまっています。

**副知事** 私は、学校の教員だけに任せるのではなく、たとえば、地域のいろいろな経験を積んだ高齢者のかたに講師をお願いするなど、教育者ではない人に教育の場にもっともっと参加してもらわないと、風通しがどんどん悪くなると思います。

**市長** 素晴らしいアイデアですね。授業以外の時間に、先生と生徒という関係ではなく、高齢者のかたやそれ以外の才能のある若い人に自由に参加していただきたいと思えますね。

**副知事** そうですね。障害者の施設

や特別養護老人ホームなどにも小学生くらいのお子さんたちが、ふだんからどんなお手伝いに行けるかいいですね。

**市長** 今は確かに、中学生ぐらいでそういう経験をしているんですが、年に一、二回、特別なときにしか行っていない。ある程度継続性が必要ですね。そうすると、いずれ自分の親がそうなったときに面倒を見ようとする気持ちが出てきますよ。時間がかかってもいいから、そういうたふだんの生活の中で、高齢者や障害者と共に生きていける意識が身につく環境を作れるといいと思います。また、狭山市の小・中学校では、いじめ問題が発生してから、すべての学校で解決策の第一歩として、生徒や児童を「くん」さん「ついで」呼ぶことを始めています。このことで、先生が子

## 日本の教育を考える

**市長** ところで、この間、ハワイの小学校の話聞いたのですが、あちらでは、まず徹底的に礼儀を教えるのだそうですね。「サンキュー」とか「グッバイ」などの感謝の言葉や挨拶からですね。そうしていると、家人にも他人にも挨拶ができる子どもになっていくそうですね。それから授業については、数学が得意な子は数学の授業に出る。国語が得意な子は国語の授業に出る。つまり、出たい授業、出たくない授業の選択はそれぞれ生徒の判断にまかせるんです。そして、授業に出ない場合でも自分自身が責任を持って自由に遊びなさいということなんだそうですね。授業中でも校庭でバスケットをしたり、いろいろなことをやっている生徒もけっこういるそうですね。

**副知事** それはおもしろい方針ですね。

**市長** そうですね。日本の教育というのは画一的で、好きでも嫌いでも授業には必ず出席させますよね。

**市長** 子どもはそういうのに敏感ですからね。呼び捨てとか、乱暴な言葉の中で育つた子どもというのは、大きくなっても、それが抜けないと思うんですね。

**副知事** そうですね。体罰を受けた人が、大きくなって、逆に体罰を与えらる例が多いそうですね。

もっと自主性を持った教育がこれからは必要になってくるのではないかなと思うのです。嫌いな授業の時間は外で遊んで、違う才能を見つけてもよいという自主性ですね。

**副知事** そうですね。不得意な分野を「あなたはここがダメ、あそこがダメ。」といったも言っていると、うんざりしちゃいます。日本の教育は、子どもの不得意な分野を矯正することには一生懸命ですが、その子どもの得意な分野を伸ばすのは苦手ですね。

**市長** 子どもたちはいろいろな才能を持っているから、先生がいかに今までと別の視点で見えてあげられるか。それによって子どもたちも精神的な安心感を持つと思うんですね。ところが、学問だけやると耐えられなくなってしまうと思うんです。

**副知事** 子どもには本当に学問するのが得意な子もいるけれど、そうではなくて、人に優しくするのが得意な子とかスポーツするのが得意な子とか、いろいろな「得意」を持っている

## まちづくりについて